

むすび塾

第92回巡回ワークショップ @山形・遊佐



語り合いは地域住民ら11人が参加して、吹浦まちづくりセンター(吹浦防災センター)を会場に開かれた。鉄骨2階の同センターは2016年にオープンし、普段は地域住民のコミュニティー活動の拠点として使われている。災害発生時には避難所にもなり、避難スペースや防災倉庫、炊き出し施設なども備える。

警戒区域・吹浦で課題探る

河北新報社は8月25日、通算92回目の防災巡回ワークショップ「むすび塾」を山形県遊佐町の吹浦地区で開いた。山形県での開催は初めて。県は今年3月、同町を東北初の津波災害警戒区域に指定しており、津波に備えた地域づくりをどう進めていくが課題となっている。語り合いには、宮城県内で防災活動に積極的に取り組む自治会関係者も加わり、防災分野での仙山連携の可能性を探った。

むすび塾に参加して



●今後へ覚悟必要 新潟・山形 地震で地域の避難場所に多くの人... ●避難場所を再考 東日本大震災後に買った非常持ち出し袋を新... ●余震へ警戒必要 新潟・山形 地震では経験のない揺れに襲わ... ●七ヶ浜を参考に 吹浦地区の避難場所の一覧地図を作ったが... ●長期避難に懸念 建築業を営みながら区長をしている新潟山形地震では高台の公民館に約30人が避難したが、手狭で備蓄品もな... ●防災マップ疑問 遊佐町は海と街場山に分かれ、地域によって自主防災組織の認識が全然違うの... ●防災無線活用を 東日本大震災の津波は知っていたのに、持ち出し袋を用意してなく、新潟・山形地震では何を携えて避難するべきなのか迷った。また防災無線を... ●避難方法が心配 自宅は高台にあるため、新潟・山形地震では自宅より、管理者を務めている町内の社会福祉施設が状況がどうなっているのか気になった。施設に限らず、地区内には高齢者や足の不自由な方もいる。避難所までどうやって逃げてもらうかが心配だ。吹浦地区まちづくり協議会生活安全部員・高橋孝典さん(78)

津波対策 県境越え共有



6月18日夜に発生した新潟・山形地震を振り返った吹浦地区区長会長の高橋孝典さん(78)は「停電は起きなかったが、もし停電で暗闇になり、ラジオやテレビが使えず、道路の信号施設なども備える。6月18日夜に発生した新潟・山形地震を振り返った吹浦地区区長会長の高橋孝典さん(78)は「停電は起きなかったが、もし停電で暗闇になり、ラジオやテレビが使えず、道路の信号施設なども備える。6月18日夜に発生した新潟・山形地震を振り返った吹浦地区区長会長の高橋孝典さん(78)は「停電は起きなかったが、もし停電で暗闇になり、ラジオやテレビが使えず、道路の信号施設なども備える。」



語り合いは地域住民ら11人が参加して、吹浦まちづくりセンター(吹浦防災センター)を会場に開かれた。鉄骨2階の同センターは2016年にオープンし、普段は地域住民のコミュニティー活動の拠点として使われている。災害発生時には避難所にもなり、避難スペースや防災倉庫、炊き出し施設なども備える。6月18日夜に発生した新潟・山形地震を振り返った吹浦地区区長会長の高橋孝典さん(78)は「停電は起きなかったが、もし停電で暗闇になり、ラジオやテレビが使えず、道路の信号施設なども備える。」

津波から命を守るために

Infographic with illustrations and text: 住民の手でハザードマップを作り地域の地形や特徴を把握する. 津波警報・注意報が解除されるまで高台にとどまる. 素早く避難開始できるような対策をとる. 家具の転倒防止と飛び出し防止器具を取り付ける.

津波警報・注意報が解除されるまで高台にとどまる。素早く避難開始できるような対策をとる。家具の転倒防止と飛び出し防止器具を取り付ける。

山形県の浸水・被害想定

山形県が2016年に公表した山形県の大規模地震に伴う津波の浸水・被害想定によると、沿岸部には地震発生後10分前後で10以上の最大波が到達すると予測されている。最大津波高に達する最短時間は津波により異なるが、鶴岡市は五ノ川8分、温泉街の湯野浜12分、酒田市は飛島(勝浦)5分、酒田港11分、遊佐町は吹浦18分など。被害は避難が難しい「夏深夜」、海水浴客が多い「夏正午」、出火が多い「冬午後6時」でシミュレーション。死者が最も深刻なのは冬の深夜で、5500人に達すると算出した。そのうち津波による死者は5060人で全体の96.4%を占める。ただし住民が地震発生後速やかに避難訓練を実施、策定中の吹浦保育園の避難計画を近く完成させ、避難訓練も行う。

約10分で10メートル超 死者最大5250人も

山形県が2016年に公表した山形県の大規模地震に伴う津波の浸水・被害想定によると、沿岸部には地震発生後10分前後で10以上の最大波が到達すると予測されている。最大津波高に達する最短時間は津波により異なるが、鶴岡市は五ノ川8分、温泉街の湯野浜12分、酒田市は飛島(勝浦)5分、酒田港11分、遊佐町は吹浦18分など。被害は避難が難しい「夏深夜」、海水浴客が多い「夏正午」、出火が多い「冬午後6時」でシミュレーション。死者が最も深刻なのは冬の深夜で、5500人に達すると算出した。そのうち津波による死者は5060人で全体の96.4%を占める。ただし住民が地震発生後速やかに避難訓練を実施、策定中の吹浦保育園の避難計画を近く完成させ、避難訓練も行う。

手作り防災地図役立つ

宮城県七ヶ浜町長 笹山行政副区長 鈴木 享さん(66) 震災発生直後、暮らしていた七ヶ浜町花沢浜は、住民自らが地形を調べて、津波ハザードマップを作っていた。震災前に想定されていた津波高3メートルを独自に設定し、地域にマップを配った。マップを使った避難訓練も行った。必要に応じて避難路や避難場所を見直し、マップを更新。そんな活動を続けるうちに、地域の防災意識が高まったと思う。

遠隔地と協定結び 備え

仙台市宮城野区 福住町内会副会長 柴山準一さん(80) 福住町内会は震災前、高齢者の世帯を対象に家具の転倒防止対策をしていた。震災の揺れは激しかったが、家具の下敷きになってけがをした高齢者はいない。迅速に屋外に出て避難につなげる意味でも、家具の転倒防止は重要だろう。地域は海岸から約5キロと内陸部にあり、津波が川を遡上し、倒壊した家屋が押し流されてきた。津波は海岸付近だけでなく、川の上流にさかのぼって来ることを想った。

●保存食話し合う 自分の家は避難所よりも高台にあり地震も強い。自分が避難するよりも住民を受け入れることを考えた方がいいかもしれない。保存食のストックについて各地区で話し合う機会があり、それぞれ保存もしているが、避難生活が長期化してくると支えられない。対策が必要だ。吹浦地区まちづくり協議会生活安全部員・高橋孝典さん(78)